

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第22回）

日時：2021年2月19日（金）13:00～15:40

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）田嶋研究員：「近代初期の生活と教育のコミュニティ（地方行政のコミュニティと教育のコミュニティ—教育の地域単位はどう形成されたか）」

- ◆近世の次世代育成文化と地域共同体の重要性。近代初期の公教育舞台成立の様相
- ◆近代国家形成期における教育の単位地域の形成 → ①旧来の村落②地方行政の大区小区制③学制の大学区、中学区、小学区
- ◆町村数の変化 1874（明治7）年 78280 → 2006（平成25）年 1719
- ◆近世の村から近代の町村へ移行。大区小区制は不安定で学校を維持運営できるような組織ではない → 学区の必要性（大学区、中学区、小学区）
- ◆大区小区制の変更→地方三新法（群区町村編成法、府県会規則、地方税規則）導入。教育令（田中不二麿）の単位学区が地方自治制の変更に重ね合わされる。教育令で登場した学務委員は当初公選制だが、段階的に任命制に移行、中央集権化
- ◆学務委員制度と教育をめぐるコミュニティの変遷。第一次教育令（1879、明治12年）→第二次教育令（1880、明治13年）→第三次教育令（1885、明治18年）→第二次小学校令（1890、明治23年）→国民学校令（1941、昭和16年）
- ◆次回以降：教育令期に地域社会の民権派内部で行われていた学務委員制度をめぐる議論と学務委員の実態について発表

（2）狩野研究員：「島小における教職員の構成と学校公開研究会における授業者」

- ◆図「島小教職員年齢一覧」金子緯一郎『島小11年史』（麦書房）より作成。斎藤喜博の島小学校校長在任時の11年間には26名の教員が在籍。力のある教員を学校公開研究会や学級立て直しに重用。公平・平等の視点から批判あり
- ◆図「入学年度別島小学校担任一覧表」。担任持ち上がりはいずれも学校公開研究会授業を担当した力のある教師
- ◆図「島小学校担任『公開研究会授業』一覧表」。若い教師が多く平均年齢は27歳
- ◆次回以降：学校公開研究会ではどのような授業をしていたのか、その内容発表

・次回研究会 3月12日（金）13:00～